



学校名：四街道市立中央小学校

氏名：川向 典希

[担当教科：小学校全科]

- 実践教科等：総合的な学習の時間
- 時間数：9時間
- 対象児童：第5学年
- 対象人数：31人

1 単元名

世界で輝く日本人

2 単元の目標

- モンゴルについて調べる活動を通し、モンゴルに興味を持ったり、多様性を理解したりすることができる。(多面的・総合的な思考力)
- 世界で活躍する日本人を知り、世界の問題に対して、自己選択・決定できる資質を育むことができる。(進んで参加する態度)

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

○日本とモンゴルの文化や生活の違いに気づく。

【多様性】

○モンゴルと日本との様々なつながりから相互性に気づく。

【相互性】

○モンゴルと日本の物的・人的なつながりについて知り、互いに協力し合う大切さに気づく。

【連携性】

○青年海外協力隊の人たちが他国の人のために真剣に活動する姿から、責任感をもって活動することが大切であることに気づく。

【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

世界にはさまざまな国があり、日本と世界の国とでは文化・民族・宗教などに違いがある。グローバル社会を生きていく子どもたちには、それらの違いがある世界で共に協力して生きることが求められる。また、世界で起きる問題は私たちのライフスタイルにも大きく関係しており、他人事にしておくことはできない。そこで本単元を、児童にとっての国際理解の第一歩としたい。

モンゴルはユーラシア大陸に位置し、広大な土地面積をもつ国である。同じアジア圏に位置しながら、遊牧民の存在や草原など日本とは大きく異なる文化・風土を持つことに特徴がある。また、モンゴルは現在経済発展の途上にあり、開発途上国と呼ばれている。このことにより、モンゴルが抱える様々な課題の解決のために多くの日本人が青年海外協力隊として現地で活躍している。

本単元では、日本とは異なる外国としてモンゴルを扱う。日本とモンゴルの文化や生活の違いに気づかせることは、児童に多様性を感じさせるために有効であるだろう。また、そこで活躍する日本人として青年海外協力隊を取り上げることで、国際貢献の意義や日本と世界のつながりについて関心を持って学習することができると思う。

(2) 児童観

学級全体の雰囲気としては、教師の話を素直に聞き行動しようとするが、おとなしい児童が多い。

世界への興味関心としては、外国語活動の時間にALTと積極的にコミュニケーションをとろうとする児童が少なかったり、夏休み中、海外旅行に行った児童が「言葉が通じなくて怖かった」「ご飯が口に合わなくて日本がいいと思った」と口にしたりするなど、あまり高くない様子が見える。総合的な学習の時間では、米についての学習を行っているが、児童の関心のほとんどが日本の米についてで、世界の米について調べる児童は数名しかいなかった。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえて、本単元では児童が興味を持てるように題材を工夫し、意欲的に学習ができるようにしたい。導入では、児童がモンゴルについて興味を持てるようクイズを出したり、モンゴル料理作りを行ったりするなどの工夫をし、学習への関心・意欲を持たせる。

次に、モンゴルが抱える課題について取り上げ、それに対しての日本側の支援について考えさせる。その中でも青年海外協力隊として活躍する隊員の姿を取り上げる。児童は、世界の人のために真剣に考え行動する日本人の姿を知ること、世界の問題や国際協力をより身近に考えることができるだろう。

これらの学習を通して、世界に興味関心をもたせ、国際社会に生きる一員としての資質を育てていきたい。

5 評価規準

観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	・モンゴルや、青年海外協力隊の活動に興味をもち、課題を設定しようことができる。 ・進んで調べることができる。 ・わかったことを工夫して表現することができる。	・調べ学習を通して、モンゴルのよさや青年海外協力隊の人の思いに気づくことができる。 ・自分なりの思いを表現することができる。	・グループの友だちと協力して、調べ学習を行うことができる。 ・自分の調べたことを周りの人にわかりやすく伝えようすることができる。
評価方法	ワークシート 調べ学習(模造紙)	ワークシート 発言	ワークシート 調べ学習(模造紙)

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	モンゴルを知ろう	モンゴルについて興味をもったり、調べようとしたりするなど意欲をもつことができる	・クイズを通して、日本とモンゴルのつながりを知り、学習の見通しをもつ
2		モンゴルについて調べよう	・モンゴルの生活・文化について調べる
3		グループでまとめよう	・調べたことをグループごとに

			できる	まとめる
4		発表しよう	調べたことを発表し、モンゴルの文化を理解することができる	・グループごとに発表する
5		モンゴル料理作りにチャレンジ	実際に児童が調べたモンゴル料理を作って食べることを通して、モンゴルの食について理解することができる	・モンゴルについて実際に体験できるものとして、食グループの調べた料理を取り上げ、調理、食す
6	世界で輝く日本人	モンゴルで輝く日本人～モンゴルが抱える問題へチャレンジ～	青年海外協力隊員の活動の意義について考え、次時からの目標を持つことができる	・青年海外協力隊環境教育横山隊員の活動について考える
7		世界で輝く日本人を調べよう	モンゴル以外でも活躍している日本人について調べることができる	・海外で活躍する日本人について調べる
8		グループでまとめよう	調べたことをまとめることができる	・グループごとにまとめる
9		発表しよう	発表を通して、国際社会の一員としての生き方を考えることができる	・国際社会の一員として生きることを考える

7 授業事例の紹介

小単元名 【モンゴルで輝く日本人～モンゴルが抱える問題へチャレンジ～】

(1) 指導案

(ア) 実践日時 平成 27 年 11 月 24 日(火) 13:50～14:35

(イ) 実践会場 5年2組教室

(ウ) 本時の目標

モンゴルのごみ問題について知り、それを解決するために活動している青年海外協力隊横山隊員の姿を通して、世界で活躍する日本人に興味を持ち、活動の意義について考えることができる。

(エ) 指導のポイント

- ① 写真を用いて興味を持たせモンゴルの環境問題について考えさせる。
- ② 横山隊員の活動を通して、次時への意欲を高める。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 10分	①写真から何が見えるか考えさせる。 (資料1、2)	○写真から気付くことを話し合い、紙に書き込み、発表する。	グループ	○写真を各班に配付する。	環境問題に興味を持ち、発言している(発言)
3分	②通訳ツェンさんの話を紹介する。 (資料3)	○モンゴルの人のごみに対する考え方を知る。		○日本とモンゴルでは考え方に違いがあることを捉えられるようにする。	
展開 3分	③青年海外協力隊横山隊員を紹介する。	○モンゴルで環境教育を行っている青年海外協力隊の横山隊員のことを知る。		○青年海外協力隊の横山隊員に興味を持たせられるよう紹介する。	
青年海外協力隊 横山隊員の活動について考えよう					
8分	④横山隊員は何をしているのか考えさせる。 (資料4、5、6)	考える。		○隊員がどんな活動をしているか考えさせ、その後活動内容を紹介する。	青年海外協力隊の活動内容を知り、活動について考えている(発言)
10分	⑤横山隊員はどうしてこのような活動をしているのか考えさせる。	○活動の意義について話し合う。		○苦勞しながら他国の人のため頑張る姿を強調する。	
まとめ 9分	⑥感想を書かせる。	○感想を書き発表する。		○自分だったらどうするか考えさせる。 ○数人に発表させる。 ○現在活動中の青年海外協力隊の人数をクイズで出し、次時への興味を持たせる。	青年海外協力隊の活動の意義やその感想を書いている(ワークシート)
2分	⑦青年海外協力隊の人数についてクイズを出し、次時の見通しをもたせる。	○モンゴル以外の青年海外協力隊の活動に興味を持つ。			

(2) 授業の振り返り

〔成果〕

・二次ではモンゴルに対して関心がある状態で本時を行った。そのため、児童は環境問題について

親身になって考えることができたと思う。

〔課題〕

- ・資料の提示の仕方(配布した写真が小さすぎた)
- ・メインの協力隊の活動意義を考える時間を多くとるべきであった。時間配分を考えたい。

(3) 使用教材パワーポイント(横山隊員が利用しているパワーポイントを一部利用した。)



資料1 ゲル地区



資料2 ごみ処理



資料3 通訳さんの話



資料4 小学生にごみが自然分解する
までの時間を教えている



資料5 生ごみコンポスト



資料6 生ごみ再利用法を現地住民
と活動しながら教えている

(4) 参考資料

NHK for school 「スーホの白い馬」

http://www.nhk.or.jp/kokugo/ohanashi/?das_id=D0005150141_00000

8 単元を通した児童の反応/変化

〔児童の感想〕

- ・外国は嫌いだったけどいろいろ調べて、外国にもいい人はたくさんいるから、外国を好きになってきた。
- ・これから自分のできることをしたいと思います。
- ・言語をもっと覚えようと思った。
- ・外国で起きているニュースを見るようになった。
- ・世界と協力して絆を深めたい。

〔考察〕

児童は、世界に興味をもち、目を向けることが多くなった。国際理解の第一歩を踏み出すことができたのではないかと考える。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

段階	項目
P 計画	・担任の思いと総合的な学習の時間の指導要領をもとに学習指導案を作成した。
D 実施	・ねらいに基づいて、研修で得た資料を教材にした。 ・ワークシートに考えを記入した。
C 検証	・模造紙やワークシート、授業の発言をもとに評価規準に照らし合わせて評価を行った。 ・授業に参加した先生から助言を得た。 ・授業を振り返り自己評価を行った。
A 改善	・資料の提示の仕方や板書について改善をした。

10 教師海外研修に参加して

「ぼくもこんな人になれたらいいな」これは、本時の展開で児童が書いた感想である。本単元を行うまで、自分以外のことには「関係ない」と言い、興味を示さなかった児童の言葉だ。また、二次終了後には、「青年海外協力隊になってみたいと思いました。まずいい人のお手伝いをしたい」との感想もあった。

海外研修で様々な経験をし、授業実践で何を子どもたちに伝えていけばいいのか何度も悩みながら指導案作りを行ってきた。様々な切り口はあるとは思ったが、モンゴルで出会った協力隊員の志を抱いて活動されていることに感動し、その姿を子どもたちに伝えたいと思い、本実践を行った。

子どもたちの感想からその思いが伝わったことが伺え、本当に嬉しく思った。また、本実践を通してこの二人以外にも多くの児童の変容を見ることができた。児童の変容を見ることができたことは、私にとって貴重な経験となった。

研修に参加し、たくさん悩み、迷ったが、それ以上にたくさんの学びがあった。参加することができ本当によかった。授業実践はこれで終わりだが、今後はこの経験を生かしていきたいと思う。